

「いのちと自然を守り育てること」

わたしたちの変わらぬテーマです。

第67期 事業報告書

平成26年11月1日 ▶ 平成27年10月31日

CONTENTS

- | | |
|------------|-------------|
| 1 トップメッセージ | 6 中期経営計画 |
| 4 連結財務諸表 | 7 トピックス |
| 5 特集 | 9 株式情報／会社情報 |

 **クミアイ化学工業株式会社**

証券コード 4996

5期連続の増収増益を達成。 売上高800億円を目指す新たな中期経営計画が始動しました。

当社グループはここ数年、徹底的な経営改革を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を図ることに努めてまいりました。その結果が、5期連続の増収増益という経営成績に結実しております。当連結会計年度の経営成績と今後の事業展開についてご説明いたします。



株主の皆様には、平素は格別のご支援、ご愛顧を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

当社、第67期（平成26年11月1日から平成27年10月31日まで）の決算を終了いたしましたので、ここに事業活動の概況をご報告申し上げます。

今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成28年1月

代表取締役会長 **大竹 丈夫**
代表取締役社長 **小池 好智**

■ 当期のポイント

**売上高は引き続き
堅調に増加**

海外販売が大幅に増加したことなどから、売上高は前期比10.4%増となりました。

**増収に伴い
営業利益は4割増**

売上高の増加に伴い、営業利益は前期比41.6%増と高い伸びを示しました。

経常利益は大幅増

イハラケミカル工業株式会社の持分法適用関連会社化に伴い、経常利益は前期比88.0%増と大幅に増加しました。

当期の経営成績

国内景況が緩やかな回復を続ける中、農業に関しては、政府が成長戦略の柱として「攻めの農林水産業」を掲げ、これに基づいた様々な施策が展開されています。さらに、TPP（環太平洋経済連携協定）交渉の大筋合意や、「農業協同組合法」の改正などを機として、日本の農業に対する議論が一層高まりつつあります。

このような環境の中、当社グループは、永続的な成長と企業価値の向上を図ることを基本方針として、国内外において自社開発品を中心とした販売戦略を策定し実践することで、さらなる拡販のための販売体制の構築に努めました。その結果、当連結会計年度の売上高は611億2千4百万円（前連結会計年度比10.4%増）、営業利益は37億2千3百万円（前連結会計年度比41.6%増）となり、5期連続の増収増益を達成することができました。なお、経常利益は、当連結会計年度よりイハラケミカル工業株式会社を持分法適用関連会社としたことに伴い、持分法による投資利益が増加したことで、80億6千4百万円（前連結会計年度比88.0%増）と大幅に増加しています。

主力の「化学品セグメント」の売上高は、前連結会計年度比10.8%増の567億4千7百万円となりました。国内

販売部門の農耕地分野では、インシアニル等を含む新規製品が好調だった水稲用箱処理剤や、殺虫剤「スプラサイド剤」や新発売の「サイアジピル剤」の販売が好調に推移した園芸分野で、前連結会計年度を上回る販売実績を残すことができました。非農耕地分野では、芝用除草剤はほぼ前年並みだったものの、自社開発原体の販売は在庫調整などの影響から前連結会計年度を下回りました。受託加工は前連結会計年度を上回りました。

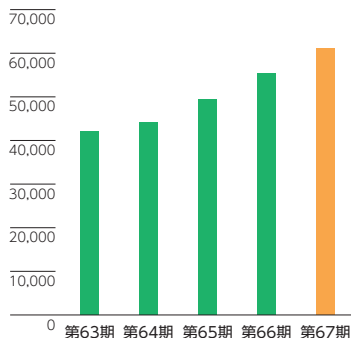
海外販売部門では、畑作用除草剤「ピロキサスルホン剤」が米国で販売が大きく増加したことに加え、特にインドでの販売が大きく伸ばした直播水稲用除草剤「ノミニー」が過去最高の売上を達成しました。また、除草剤「サターン」や植物成長調節剤「KIM-112」の販売も好調に推移しました。さらに、円安傾向も加わり、海外での販売は前連結会計年度を大きく上回りました。

今後の事業展開

当社グループはこのほど、2016年度から3カ年の中期経営計画を策定しました。当計画を通じて、さらなる改革と基盤の強化に取り組み、畑作用除草剤「ピロキサスルホン剤」や水稲用除草剤「フェノキサスルホン剤」などの新

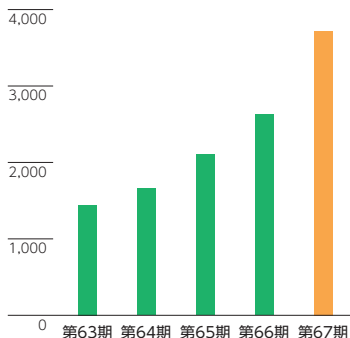
売上高

(単位:百万円)



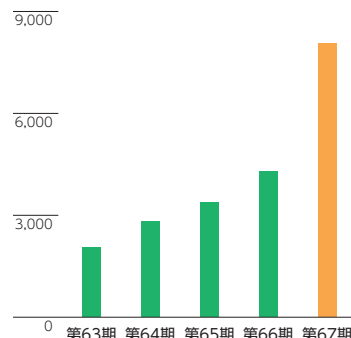
営業利益

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



規開発剤の販売が本格的に事業に貢献する2018年度に、売上高800億円、営業利益50億円の達成を目指します。

化学品セグメントの国内販売部門では、さらなる企業体質の強化と持続的成長の維持を図り、売上・利益を増大させるべく、マーケティング戦略に基づいた普及・販売施策の実行と、情勢の変化に機敏に対応できる戦略的組織機能の強化に努めます。水稲用除草剤分野では、「フェノキサスルホン剤」「ピリミスルファン剤」など、水稲用箱処理剤分野では「イソチアニル剤」などを重点とした普及・販売拡大に努めます。園芸殺菌剤分野では「ファンタジスタ剤」など、園芸殺虫剤分野では「サイアジピル剤」などの普及・販売拡大に努めるほか、引き続き、豆つぶ剤や微粒剤F、微生物農薬などのオンリーワン技術品目の普及・拡販にも注力します。特販部門



では、非農耕地市場における販売環境の変化を把握し、迅速に対応することで、自社原体の拡販による利益の増大を目指すほか、自社原体含有剤の受託加工拡大を図ります。

海外販売部門では、海外拠点と連携して市場動向を把握し販売戦略の策定と実践に取り組みます。主力製品である「ピロキサスルホン剤」では市場シェアの拡大を図り、主にオーストラリア・米国などでの拡販に努めるとともに、登録国・適用作物の拡大に取り組みます。既存の主力製品である「ノミニー」は、既存市場での維持と新規市場での拡販による販売最大化を図ります。

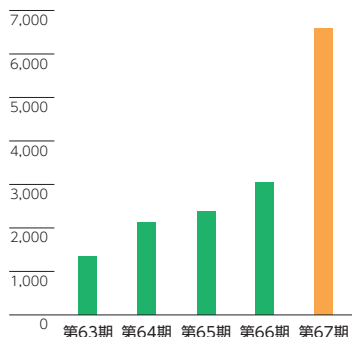
株主の皆様へ

当社は、企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案しつつ、安定した配当を継続して行うことを、株主の皆様への利益還元の基本方針としております。この方針に基づき、第67期の期末配当は、当期の経営成績などを鑑み、前期末から1円増配の1株当たり8円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

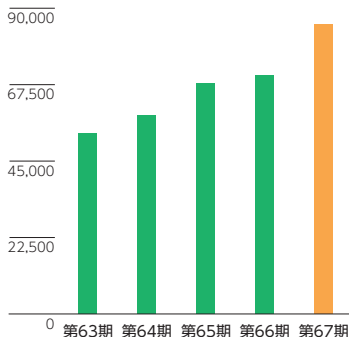
■ 当期純利益

(単位:百万円)



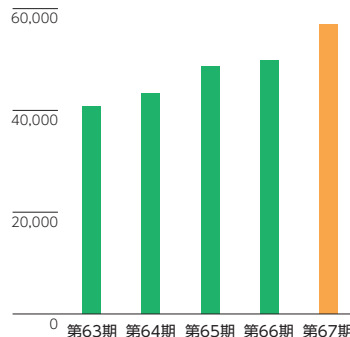
■ 総資産

(単位:百万円)



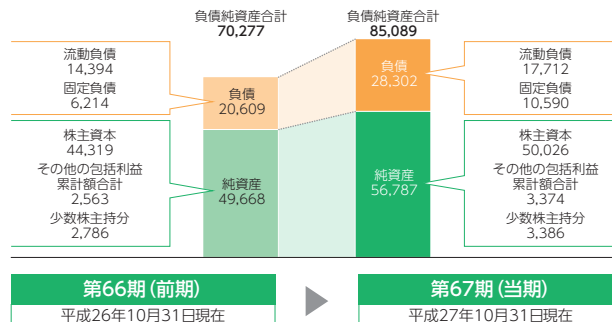
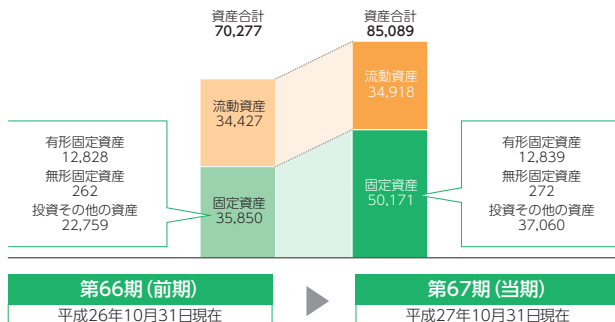
■ 純資産

(単位:百万円)



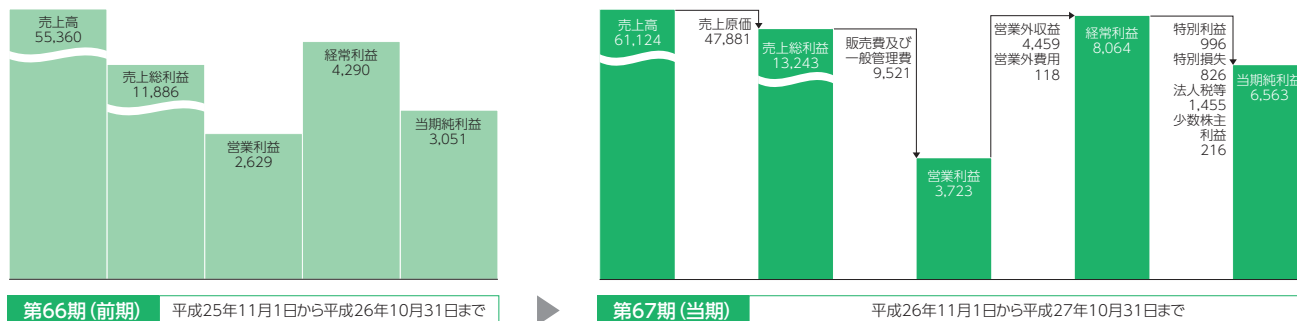
財務状況

(単位:百万円)



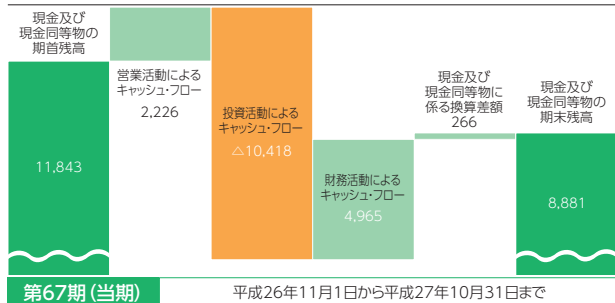
経営成績

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)



資産・負債・純資産について

● 資産の部

当連結会計年度末の総資産は850億8千9百万円で、前連結会計年度末に比べ148億1千2百万円の増加となりました。流動資産が4億9千1百万円増加し、固定資産が143億2千1百万円増加しました。流動資産の増加は、受取手形及び売掛金並びに商品及び製品の増加が現金及び預金の減少を上回ったことなどによるものです。固定資産の増加は、投資有価証券の増加等によるものです。

● 負債の部

負債は283億2百万円で、前連結会計年度末に比べ76億9千3百万円の増加となりました。流動負債が33億1千8百万円増加し、固定負債が43億7千6百万円増加しました。流動負債の増加は、支払手形及び買掛金並びに短期借入金の増加等によるものです。固定負債の増加は、長期借入金の増加等によるものです。

● 純資産の部

純資産は567億8千7百万円で、前連結会計年度末に比べ71億1千9百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は62.8%、1株当たり純資産額は671円94銭となりました。

安心・安全で、 より優れた農薬の実現に向けて 常に革新的な研究開発を推進中。

当社の設立は、今を遡ること66年前の昭和24年（1949年）。国産初の農薬開発に挑戦し、設立から10年後に殺菌剤「アソジン」の開発・製品化に成功。以来、農薬開発のパイオニアとして業界をリードし、国内および海外の農業生産に寄与し続けてきました。これまでの事業拡大と企業成長を支えてきた源泉は、独創的かつ先駆的なアプローチによって技術革新を果たしてきた研究開発体制にあります。当社は、生物科学研究所および製剤技術研究所の自社施設2カ所に加えて、各地に拠点を擁し、グループ企業であるイハラケミカル工業株式会社および株式会社ケイ・アイ研究所との連携を通じて、新規化合物の合成から生物評価、製剤、安全性評価、そしてプロセス開発に至るまでの高いハードルをクリアし、安全で効果的な農薬を次々に生み出しています。



世界人口70億の「食」を支えるために農業生産のサポート。 研究開発のスピードアップで、グローバル展開を強化。

当社製品の国内販売は、農協（JA）の全国組織である全国農業協同組合連合会（JA全農）を通じて行われます。地域密着型の販売活動を基盤に、エンドユーザーである農家の方々からいただく声を、研究開発や製品ラインアップに活かしています。また、海外営業部およびグループ企業（米国、ベルギー、タイ、韓国、ブラジル）を通じて、50カ国を超える世界各国の農業地帯に製品をお届けしています。現在、海外売上高の割合は46.1%（平成27年10月期）。今後もグローバル展開をさらに推進し、この割合を拡大してまいります。



クミアイ化学工業 中期経営計画

国連の世界人口予測は、2015年7月時点で約73億人ですが、2050年では97億人、2100年には112億人を超える予測となっています。人口の増加、新興国での経済発展等により、食糧需要は増加しており、それに伴い世界的には農薬市場も継続して成長することが予想されます。

一方国内市場は、TPPや規制改革によって生じる農業情勢の変化に伴い、少なからぬ影響を受けることが考えられます。

このような中、当社は更に継続して成長し続けるため、この度、新中期経営計画「Grow up KUMIKA 3rd Stage」を策定致しました。

本計画では、新ビジョンの下、持続的に発展できる強い企業として、国内基盤を確実に維持することに加え、北米や新興国を中心とした農薬市場の拡大に対応可能な事業展開を推進し、2018年売上高800億円を目指します。

《新ビジョン》

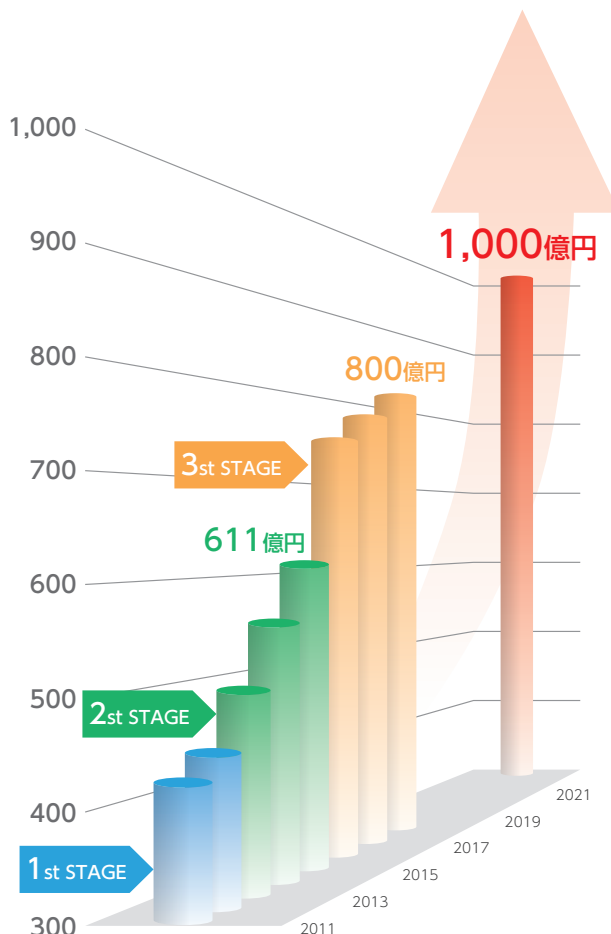
～Create the Future未来を拓く～

- ・ 幸せで日本一の永続企業
- ・ 安全安心で豊かな食と農に貢献する
- ・ 業界トップへと飛躍する

更に次のステージでは、畑作用除草剤ピロキサスルホン剤適用国の拡大、新規開発剤の上市等により成長基調を高め、売上高1,000億円の達成を図ります。

株主の皆様のご更なるご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

Create the Future 未来を拓く



TOPICS 01 水稲用一発処理除草剤「トップガン」発売15周年

当社の主力製品であります水稲用一発処理除草剤「トップガン」につきましては、おかげさまで平成27年に発売15周年を迎えました。これまで累計販売で約178万haの出荷面積（日本の水田面積相当分以上）となり、多くの農家の皆様にご愛顧いただいております。これは4成分・4剤型・安定した効果・幅広い適用内容を兼ね備え、農家の皆様に安全に安心して使っていただけているからです。

今後とも水稲用一発処理除草剤「トップガン」につきまして、農家の皆様に末永くご愛顧いただけるように努力し、その他当社新製品とともに水稲用除草剤分野のシェア確保に努めてまいります。



TOPICS 02 新規水稲用除草剤「フェノキサスルホン剤」のラインナップ充実

平成27年より販売を順次開始し、今後当社の水稲用除草剤分野のシェア拡大の柱となる新製品についてご紹介します。

当社とイハラケミカル工業株式会社が共同で開発した新規有効成分「フェノキサスルホン剤」と「ピリミスルファン剤」との2成分混合剤「ガンガン」を中心に、3成分混合剤「ベンケイ」、「クミスター」、「ヤブサメ」を上市し、田植同時施用や省力散布等、地域の使用実態や雑草発生状況に応じた製品をご提供できるように準備しました。また、規格についても担い手向け大型規格の粒剤「10kg規格」、省力製剤豆つぶ剤「2.5kg規格」等を順次揃え、農家の皆様の様々なニーズに応えられるよう今後もラインアップの充実に努めてまいります。



TOPICS 03 ピロキサスルホン剤 販売地域の拡大

当社の業績を牽引している畑作用除草剤「ピロキサスルホン剤」は、現在6か国で農薬登録が認可されていますが、販売数量の大部分が米国およびオーストラリアに出荷されており、米国ではダイズ、トウモロコシ用、オーストラリアではコムギ用除草剤として使用されています。

販売地域につきましては、2014年に登録の申請を行ったブラジル、ニュージーランドに続き、2015年にはインド、トルコ、メキシコ、チリの4か国でも申請を行い、さらに販売地域を拡大していく予定です。

写真は、登録申請を行いましたインドでの圃場試験の様子です。

コムギ畑の写真で白い花を咲かせているのは「ヒメカナリークサヨシ」という従来の除草剤に抵抗性を獲得した問題雑草です。「ピロキサスルホン剤」はこの雑草に高い効果を示すことから、その防除用薬剤として期待されています。インドは、コムギの生産量が世界第3位、ダイズの生産量が世界第5位の大産地であり、それぞれ約3,000万ha、1,000万haが栽培されています。農薬の市場規模は2014年で1,800百万ドルと日本の1/2程度ですが、年率10%で成長しており、今後も市場の拡大が期待される国の1つです。

また、引き続き登録取得国での適用作物の拡大、高付加価値市場の開拓、新規混合剤・製剤の開発などに継続して取り組むとともに、市場シェアの拡大による販売数量の早期最大化を図ることで、当社の持続的な成長を可能とする主力製品に育成します。



コムギ畑に発生した雑草「ヒメカナリークサヨシ」



ダイズ畑での試験の様子

株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	86,977,709株
株主数	5,889名

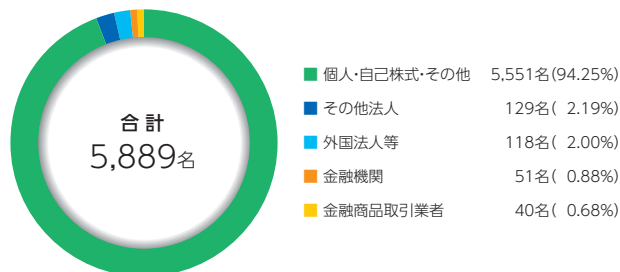
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	30.49
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	5,907	6.79
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	3.18
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	2,694	3.09
スルガ銀行株式会社	2,609	3.00
農林中央金庫	2,588	2.97
CGML PB CLIENT ACCOUNT / COLLATERAL	2,056	2.36
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,785	2.05
イハラケミカル工業株式会社	1,508	1.73
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	1,277	1.46

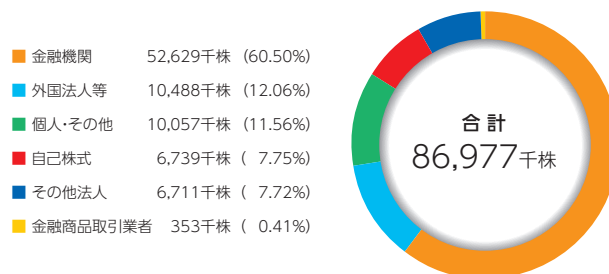
(注) 当社は自己株式6,739,152株(持比率7.74%)を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

株式分布状況

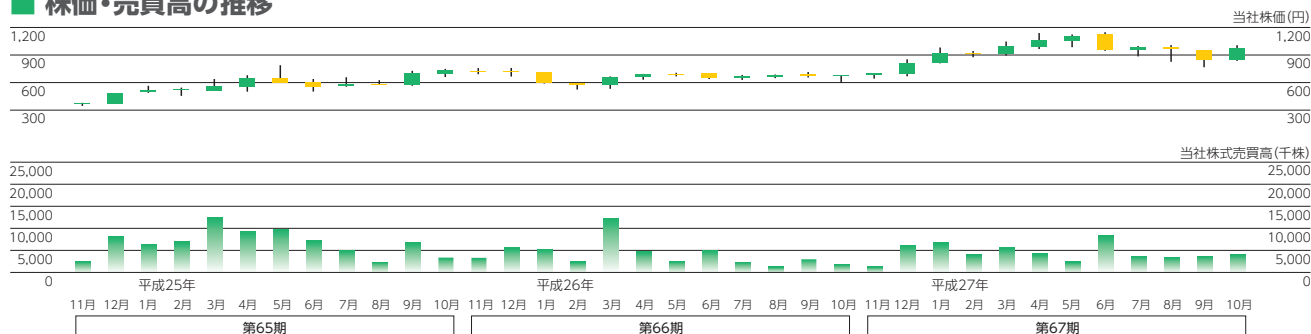
所有者別株主数



所有者別株式数

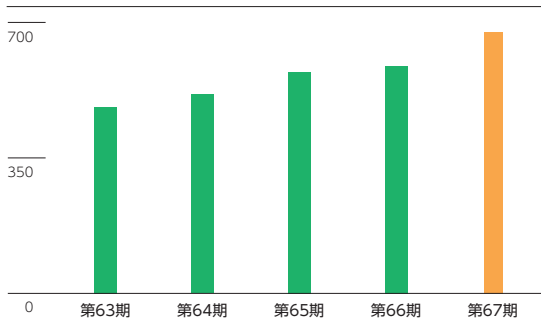


株価・売買高の推移



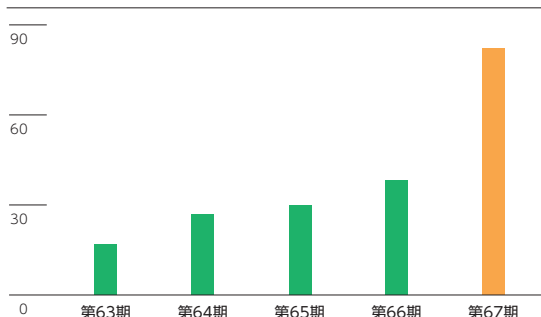
1株当たり純資産

(単位:円)



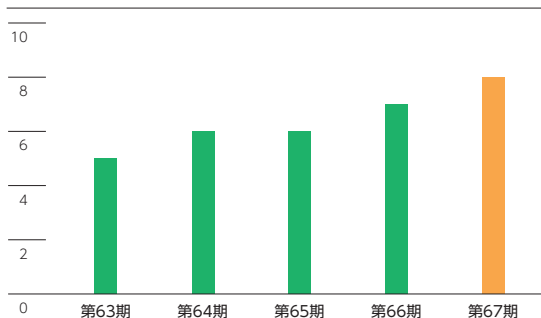
1株当たり当期純利益

(単位:円)



1株当たり配当金

(単位:円)



会社概要

会社名 クミアイ化学工業株式会社
設立年月日 昭和24年6月20日
資本金 4,534百万円
事業内容 殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
従業員数 652名(連結)
本社所在地 〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

取締役及び監査役

代表取締役 取締役会長	大竹 丈夫	取締役	安部 俊博
代表取締役 取締役社長	小池 好智	取締役	天野 徹夫
代表取締役 専務取締役	柿 並 宏之	取締役	住吉 弘匡
常務取締役	尾 嶋 正 弘	取締役	前田 陽一
取締役	藤 本 文 仁	常勤監査役	藤原 功
取締役	中 島 正 成	監査役	久保 省三
		監査役	前田 哲弘
		監査役	高橋 軍治

(注) 常勤監査役藤原 功氏、監査役久保省三氏及び監査役前田哲弘氏は「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

連結子会社の概要

尾道クミカ工業株式会社 ※ 農薬等の製造販売業	広島県尾道市 資本金100百万円	出資比率:100.0%
日本印刷工業株式会社 ※ 各種印刷物等の製造販売業	静岡県静岡市駿河区 資本金88百万円	出資比率: 48.5%
株式会社クミカ物流 ※ 運送・倉庫業	静岡県静岡市清水区 資本金62百万円	出資比率: 52.9%
ケイアイ情報システム株式会社 ※ 情報サービス業	東京都台東区 資本金50百万円	出資比率: 50.0%
株式会社エコプロ・リサーチ ※ 環境中の化学物質等計量業	静岡県静岡市清水区 資本金45百万円	出資比率: 66.7%
ケイ・アイ ケミカルU.S.A. ※ 農薬等の輸出入	米国ニューヨーク州 資本金2百万USDドル	出資比率: 50.0%
ケイ・アイ ケミカルヨーロッパ ※ 農薬等の輸出入	ベルギー王国ブラッセル市 資本金70万ユーロ	出資比率: 50.0%
ケイ・アイ ケミカル ブラジル有 ※ 受託業務	ブラジル連邦共和国サンパウロ市 資本金31百万レアル	出資比率: 50.0%

■ 株主メモ

事業年度 11月1日から翌年10月31日まで
 定時株主総会 毎年1月中
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 〒137-8081
 (郵送先) 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 証券代行部

基準日 定時株主総会については10月31日、その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>
 (但し、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

お手続き窓口及びお問合せ先

<ul style="list-style-type: none"> ○ お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き ○ 上記の各お手続きに関するご照会 	<p>お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き又はお問合せをお願いします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ まだ受取っておられない配当金の受領に関するお手続き及びそのご照会 ○ 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き ○ 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会 ○ 株主様宛郵便物等の発送と返戻に関するご照会 ○ 特別口座に関する各お手続き及びそのご照会 	<p>【お手続き窓口】 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口</p> <p>【お問合せ先】 三菱UFJ信託銀行株式会社 各種お問合せ 0120-232-711 各種手続用紙のご請求 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/</p>



クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号

※この事業報告書に関するお問合せは下記までお願いいたします。

総務部 03(3822)5036

URL <http://www.kumiai-chem.co.jp/>

IR情報を当社ホームページで
 ご覧になれます。

ホームページアドレスは次のとおりです。

<http://www.kumiai-chem.co.jp/>



環境に配慮した
 「植物油インキ」を
 使用しています。